

西、山西の各省にては、沿途民設の駝廠ありて宿泊に便す。

駝運は、時と處とを擇ばず夜行するものとす。毎日夕刻發程し翌早朝宿泊地に到着すれば、之を草野に放つて休養するを常とせり。若し晝行せば、夜間は飽食と監視に便ならざればなり。

駝の性質は、極めて鈍にして、物に驚かず、之を御すること容易なり。故に一人能く六七頭を制するを得。其の法、小木片を以て、駝の鼻端に管し、麻繩を附して數頭を魚貫し、駝夫は先頭の一駝を牽き、或は之に騎す。貨物を装置するには、鼻繩を下に引けば跪臥して人の裝載に任す。更に鼻繩を上に引けば、即ち起つ。元來駝は、其の皮極めて厚く、全身の神經甚だ鈍なるに因り、鞭撻効なし。唯、鼻端の神經は銳敏なるが故に、此の如くす。聞く、狼は能く此の呼吸を解するが故に、先づ其の脚に觸れ、駝の下視するとき、鼻端を嚙み。駝苦痛に堪えず、悲鳴して倒るゝを待ち、乃ち其肉を食ふて去ると云ふ。

駝の毛は、毎年六月頃、自然に剝落するものなるに因り、四月末に剔毛す。每頭約四五斤を得、一斤の價額銀一錢(我約十五錢内外)之を用ひて氈、毡、衣、襪の類を製す。最も

#### 駝と狼

#### 毛と骨